

北京語言大学における留学生受け入れ機関の機能的展開

謝, 瑋
九州大学大学院博士後期課程2年

<https://doi.org/10.15017/8059>

出版情報：飛梅論集. 6, pp.125-142, 2006-03-24. 九州大学大学院人間環境学府教育システム専攻教育学コース
バージョン：
権利関係：

北京語言大学における留学生受け入れ機関の機能的展開

謝 璋

1. はじめに

国際交流の進展に伴い、全世界で学んでいる留学生は150万人を超えていると言われている¹⁾。その中で中国はアジアで日本に次ぐ第二位の留学生受け入れ国として、特に重点大学の留学生受け入れ機関は、欧米や日本と同様に留学生に関する問題点を共有している。一方で、中国は留学先進国の受け入れ機関の機能を参考にするとともに²⁾、中国及び重点大学の独自の特色を活かし、社会状況も考慮しつつ、独自の留学生受け入れ体制を展開していかなければならない。

近年、中国において受け入れ留学生の数は毎年10%以上のスピードで急増している。特に、2004年に受け入れた留学生数は110,844人に達し、2003年より33,129人(42.63%)増加した³⁾。中華人民共和国成立以来、留学生受け入れが最も多い時期となっている。留学生の急増に伴って、留学生の質を確保するためにも、各重点大学の留学生受け入れ機関は留学生受け入れ、教育、生活支援などの任務を担っているが、これは大学の運営面においても重要な機関となっている。

本稿で扱う北京語言大学は中国で一番早い時期に留学生を受け入れた大学で、数十年の留学生受け入れの歴史と経験があり、中国の最大の留学生教育基地を担う、留学生の専門教育大学である。現在、北京語言大学で毎年受け入れている留学生数は全国の10%を占めており、2003年の留学生数は7000人を超えている⁴⁾。北京語言大学は留学生受け入れの専門大学として、留学生教育の教科書を編纂し、カリキュラムを作成しており、留学生教育の実験校とも言える。生活支援の面でも専門の留学生管理機関を整えており、留学生支援政策を迅速に実行することができる。以上のことから北京語言大学では中国での代表的な留学生生活支援を行う大学とも言えるのである。

また北京語言大学は中国で最初の留学生の受け入れ大学で、国家の政策によって留学生の受け入れを改革してきており、北京語言大学の歴史が中国の留学生受け入れの歴史を反映しているということもできよう。本稿では北京語言大学の発展過程を考察することを通して、中国の留学生受け入れの歴史を明らかにする。次に北京語言大学における留学生受け入れ機関の機能を検討し、各自の業務内容と相互の関係を分析し、留学生教育と生活支援の具体的な実施状況と存在している問題点を明らかにすることを目的としている。高等教育国際化と産業化の趨勢において、今後重点大学は留学生受け入れを重視していく必要がある。このような北京語言大学の留学生受け入れを研究する

*九州大学大学院博士後期課程2年

ことにより、将来的には他大学における受け入れ機関にも有益な示唆を与えられると考える。中国の高等教育改革にも寄与できると考える。

また、留学生研究としては、OECD諸国では、ほとんど留学生受け入れ機関が設置されて、留学生の教育と生活支援の面で様々な問題点を抱えている。本稿で中国の重点大学における留学生受け入れ機関を研究することにより、潜在的な可能性を持つ中国留学研究として欧米及び日本の留学研究に大きなインパクトを及ぼすことができると思われる。また、世界の留学研究ひいては高等教育の領域に対して有益な補完的事例を提供すると考える。

本研究は北京語言大学の留学生受け入れ機関を研究対象とする。筆者は2002年8月に北京の国家留学生基金委員会を訪問し、留学生受け入れに関する国家の公式文書や資料の収集を行った。2003年8～9月には、北京語言大学における留学生担当者にインタビューを行った。

2. 北京語言大学の留学生受け入れの変遷

北京語言大学の留学生受け入れの歴史は、中国の留学生受け入れの歴史を反映している。中国の留学生受け入れ政策の変化に基づいて、北京語言大学は留学生受け入れ、留学生教育を相応に調整している。本稿では、中国の先行研究と筆者の研究により北京語言大学の留学生受け入れの歴史は3期を分け、それぞれの時期に検討を加える。

1) 1950年～1971年まで

1950年11月30日に中国教育部の委託を受けて、清華大学で「東欧交換生中国語専修クラス」を設けた⁹⁾。これが北京語言大学の前身である。中国語専修クラスは、ポーランド、チェコスロバキア、ルーマニア、ハンガリー、ブルガリアの5カ国から35人を受け入れた。これが新中国の最初の留学生である。当時、中国教育部から『清華大学の東欧交換生中国語専修クラスに関する暫定規程』が発表された。その規程によって、「入学できる者は東欧各国政府により推薦され、中央人民政府教育部の審査に合格した者であること；高卒以上の学力が有り、またロシア語あるいは英語に精通する者であること」という入学資格が要求された。学習期限は2年間で、1年目は主に基礎中国語の学習で、2年目は中国語以外のカリキュラムの習得も加えられた。このクラスの目的は「東欧諸国の留学生に中国語の基礎能力を身に付けさせ、留学を通じて中国の政治、歴史、文化及び他の方面について、基本的なことを知ってもらう」ことであった⁹⁾。このように、中国語専修クラスの受け入れ対象、教育機能、教育目的が明確に規定された。

1951年、東南アジア諸国の留学生の受け入れに伴って中国政府は『東南アジア諸国の留学生受け入れについての原則』を制定し、留学生の応募条件、審査などについて明確に規定した。この原則によれば、留学希望者は当地の中国大使館の審査を受け、中国教育部の許可を得なければならない。また、当時の応募条件は、「応募者は自国政府あるいは進歩団体（共産主義を支持する団体）の推薦状、本人の学歴証書、留学経費の保証証書などを提示し、高卒以上の学力を有し、中国に友好関係を持ち、30歳未満で、中国語、ロシア語あるいは英語のいずれかを習得し、身体健康な者である

こと」が要求されたのである。また、この原則の中では、留学生に対する中国語補習制度も定められていた。つまり、中国語のできない留学生は最初の2年間に外国人留学生のための「中国語専修クラス」で中国語を学び、2年後、教育部の紹介により各大学に入学することができるというものである。

留学生の増加に伴い、清華大学における「東欧交換生中国語専修クラス」は北京大学に併合し、「北京大学外国人留学生中国語専修クラス」という名に変更し、1961年、北京外国語学院に編入された⁷⁾。1962年になって大学として独立し、当時の学校名である外国人留学生高等予備学校となった。そして1964年6月、国務院によって北京語言学院と改称された⁸⁾。1965年、周恩来は北京語言学院の任務と校名を指示した。1966年に文化大革命が始まると、中国にいた外国人留学生は大学機能の停止のために帰国を余儀なくされ、外国にいた中国人留学生も文化大革命に参加するため帰国した。1971年10月、北京語言学院は閉校された。

この時期では、北京語言大学は留学生受け入れ、教育、生活管理などに自主権が全くなく、完全に国家の指令を受けた、中国の外交活動の一部としての政治的な色彩が強かったと考えられる。

2) 1972年～90年代初め

72年10月、国務院は北京語言学院の再開を許可した。学校の主な目的は「外国人留学生の中国語予備教育を担当すること」である。翌年の7月に出された『1973年留学生受け入れに関する若干の問題についての申し入れ報告』の中で「本年度から、外国人留学生受け入れを再開し、また一部の留学生に奨学金を提供する。今年度、受け入れの留学生を我が国の大学に入学する学部生、研究生、専科学部生だけに限る。留学生は一般的に1年ほど中国語を勉強する」としていた。1973年には外国人留学生383人が中国を訪れている。74年4月、日本も日中友好協会を通じて中国政府の奨学生として北京語言学院に13人の留学生を派遣した。

この時期、北京語言大学では留学生の種類や留学生の出身国に大きな変化があった。また各大学が留学生受け入れの自主権を持って、私費留学生の募集も始まったのもこの時期である。

3) 1990年代初め～現在

1996年6月、北京語言文化大学と改称され⁹⁾、更に2002年7月教育部により、北京語言大学と改称され現在に至っている¹⁰⁾。この時期から北京語言大学は外国人留学生に対する中国語・中華文化教育を主要な任務としている中国で唯一の国際型大学であると同時に、中国学生への外国語、中国語言語学・文学、コンピューター科学と技術、金融学などの教育も持ち、対外中国語教師養成そして留学予備人員の外国語訓練等の任務を引き受けている。北京語言大学は創立以来、40年の間に、世界の160ヵ国からの留学生を60,000人余り受け入れた経験をもつ¹¹⁾。現在では、年間約6000人の留学生と約2000人の中国人学生がこの大学で学んでいる。

この時期、北京語言大学は複数の留学生受け入れ機関を設置し、各機関がそれぞれの機能を発揮し、留学生の教育と支援を重点として、自身の特色を形成している。

以上述べたように北京語言大学を、3つの時期区分により大まかに概観した。中国成立の最初に、北京語言大学は国家の任務を受けて、留学生教育を行った。70年代から90年代初めまで、私費留学生を受け入れ始めた。90年代以後に私費留学生の急増に伴い、北京語言大学は留学生教育と支援を重点として展開している。

以下では、歴史的変遷を踏まえて現在の北京語言大学における留学生受け入れ機関の具体的な機能を検討する。

3. 北京語言大学における留学生受け入れ機関と機能

現在、中国の大学においては外国人留学生に対する教育と管理の機能として主に3つの種類がある。この3種類の受け入れ機関の機能は業務の重点が異なっている。

(1) 国際交流機能：外国との国際交流業務の機能を担っている。例えば、大学間の交流や、姉妹校の締結、国外友好団体との交流など。

(2) 留学生管理支援機能：留学生の日常行政事務の機能を担っている。例えば：留学生募集、留学生入学申し込みの審査、留学生ビザの申し込みと延期、留学生の送迎など、留学生教育部門に協力する。留学生のオリエンテーション、進路相談等もある。

(3) 留学生教育機能：留学生に対する教育機能を担っている二級学院である。それは最新の形式であり、教育と管理面では自主権があり、独自に運営されている。留学生が多い大学ではほとんど二級学院がある。二級学院は主に中国語教育を行い、中国文化を伝える。例えば、各種の文芸活動、パーティー、見学、旅行などを行う。これらは留学生の中国文化適応に寄与する¹²⁾。

北京語言大学では、中国で唯一この3種の機能を実践する機関が全て揃っている。上記の3つの機能に対応させると、具体的には以下ようになる。(1)の国際交流機能を担っているのは「国際合作・交流処」及び「合作弁学事務室」という名称の2つの機関があり、留学生の受け入れと国際交流などの業務に従事している。(2)の留学生管理支援機能を担っているのは「留学生課」という名称の機関である。(3)の留学生教育機能を担っているのは「二級学院」である。北京語言大学の場合は、その中に「漢語学院」、「漢語速成学院」、「漢語研修学院」の3つがある。このうち(1)と(2)の3つの機関は留学生の管理支援機関である。北京語言大学は専門な留学生受け入れの大学で、対外中国語教育の基地であるので、これらの留学生教育と管理支援機関のほかに、対外中国語研究センター、漢語レベル試験センター、遠隔教育学院が設置されている。対外中国語研究センターは外国人への中国語教育の研究機関であり、漢語レベル試験センターは外国人に向けた中国語試験の機関であり、遠隔教育学院は自国で中国語を勉強する人に中国語教育を行う機関である。

(2)の留学生管理支援機能については説明が必要であろう。中国では留学生管理機能というのは留学生管理と支援の二つの方面を含んでいる。それは留学生支援の業務が始まったばかりで、ほとんどの大学において支援機能を管理機能の一つとして認識されているからである。黒竜江大学の金春花は留学生管理機能という言葉を用いているが、近年、留学生への支援の増加、単なる管理機能にとどまらず、その内容が増加したため、本論では「管理支援機能」と呼ぶことをする。この管理支

援機能のうち、留学生管理の研究について中国で論文が多くあるが、留学生支援についてあまり言及されなかった。そこで本稿では、後半で留学生支援機能についても取り上げて分析を加える。

北京語言大学ではこの3種の機能を実践する受け入れ機関が全て設置されているため、それぞれが業務を分担し、専門性が強いのが特徴である。北京語言大学における留学生受け入れ機関は7つがある。この点が他の大学と大きく異なる点であるが、他の大学では1つ或いは2つだけの機関が、留学生教育と管理を一緒に行い、専門性には乏しい。しかし各大学での留学生も急増しており、業務の需要を満足させるために、受け入れ機関の数も増加し、専門性を強化する必要が生じている。

ここまで、北京語言大学の留学生教育に関する機関と管理機関の具体的な名称と機能の役割分担を明らかにした。以下ではこれらの受け入れ機関の具体的な業務について考察する。まず、留学生教育機能として、漢語学院、漢語速成学院、漢語研修学院、遠隔教育学院における専攻、カリキュラムを紹介し、その4つの機関の独自性を検討する。その後、留学生支援機能として、「留学生科」を中心にその支援の具体的な施策を明らかにする。

4. 留学生教育機能の展開

北京語言大学には、留学生の教育機関として、漢語学院、漢語速成学院、漢語研修学院、遠隔教育学院の4つがある。まず、この4つの教育機関について考察する。

(1) 漢語学院

漢語学院は留学生に中国語教育を施す専門機関である。漢語学院は、中華人民共和国となって最初の外国人留学生向けの中国語専門教育機関であり、北京語言大学の最も主要な教育機構である。漢語学院の教育目標は主に、上手に中国語を活用して、中国語基礎知識、統合性の中国国情と人文知識があり、専門素質と能力がそろっている語言と専攻の複合型・応用型人材を養成することである¹³⁾。現在、毎年、60カ国の約1500人の留学生がこの学院で勉強している。漢語学院は中国が世界に向け、中国語専門の留学生人材を養成する最大の基地である。学院は対外中国語教育研究所を設置し、中国語を第二言語とする教育研究と基礎科学研究を専門に引き受けている。

2006年の漢語学院の卒業予定者は185人で、15カ国から来ている。学院は主に外国人留学生の中国語コース（1976年）、中国言語文化コース（1997年）の学部教育を引き受けている。中国語コースには5つの「コース」が設置されている。それは言語コース、貿易コース、文化コース、漢英バイリンガルコース及び韓漢翻訳コースである¹⁴⁾。表1、表2に、中国語コースにおける各コースの留学生の人数、留学生の出身国が表わされている。世界の経済往来が頻繁になって、大部分の留学生は今後の就職のために中国語を勉強するので、貿易コースの留学生は圧倒的に多数を占めている。しかも、韓国からの留学生が7割を占めており、今後、漢語学院はほかの国の留学生を受け入れて、留学生の出身国比率の均衡を維持することが重点課題になっている。

表1 各専攻コースの留学生人数

専攻コース	貿易コース	言語コース	文化コース	バイリンガルコース
学生人数	103人	60人	11人	11人

【出典】北京語言大学ホームページ <http://www.blcu.edu.cn> 2005年11月15日

表2 留学生の出身国

単位(人)

国籍	韓国	日本	インドネシア	ベトナム	タイ	アルゼンチン	ベルギー	イギリス	ドイツ	キューバ	カザフスタン	ラオス	マダガスカル	ノルウェー	シンガポール
人数	135	14	12	9	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

【出典】北京語言大学ホームページ <http://www.blcu.edu.cn> 2005年11月15日

① 中国語学科

中国語専攻は社会発展の需要に応じて、言語コース(1976年)、貿易中国語コース(1996年)、漢英バイリンガルコース(1999年)、中国言語文化コース(2003年)、韓漢翻訳コース(2005年)を設立した。本コースは基礎教育と専攻教育との二つの段階に分けている。1、2年は基礎教育段階で、主に中国語のヒアリング、読み、会話、書きの勉強を目的としている。3、4年は専攻教育段階で、中国語を勉強すると同時に、専門知識の学習が重点としている。

例えば、貿易中国語コースは1996年に設立され、中国で最初に外国人留学生のために設立された貿易専攻である。養成目標は外国人留学生に中国語で、経済貿易活動を行わせることである。経済貿易の仕事についての基本知識と技能を身に付けさせている。

四つの専攻コースが異なっているため、各自の育成目標に基づいて、カリキュラムは各専攻コースの特徴を重要視し、中国語と結合した専門内容を準備している。各専攻コースの必修科目、限修科目、撰修科目を通して、専攻コース学習の特色が明らかになっている。

漢語学院は留学生に対応する各学年の教科書を編纂した。この教科書は大部分が、北京語言大学の教員によって編纂されている。これをみると、漢語学院は留学生の中国語教育を重視するだけでなく、さらに実用的な部分の教育、中国歴史、文化、文学などの教育をも重視していると思われる。これは留学生が中国社会に適応し、中国文化を理解することに関して重要なことであろう。

② 中国言語文化学科

中国言語文化コースは1996年に設立され、中国で最初に外国人留学生のために設立された中国言語文化コースである。このコースの養成目標は、高い中国語レベルをもち、総合的な中国国情知識

と中国言語文化素質及び基本の研究能力を整え、中国語で中国と関係ある仕事を行えることである¹⁵⁾。

このコースのカリキュラムは言語と文化との二つの方面に分かれる。言語課程は初級、中級と高級中国言語文化総合授業がある。主に、ヒアリング、読み、書き、会話の技能練習科目、古典中国語、中国語通訳、中国語語彙などの科目がある。文化課程は中国地理、中国古代史、中国近代史、中国国情、中国古代文学史、中国当代文学史、中国文学選読、中国文化史、文化討論、中国哲学史、中国民俗、中国芸術史、中外文化交流史及び経済、法律、京劇、書道などがある。この専攻は1、2年時には、中国語専攻の課程とほぼ同じで、3、4年時には、文化課程が重点になる。

漢語学院の初期の20年間は、中国語言語教育を中心として構築が進んだ。漢語学院は教学実践と理論探求を通して、実用性がある教学計画、カリキュラム体系と教育管理システムを形成し、中国語言語コースと中国言語文化コースの養成目標を明らかにし、全国の同種の教育の見本となった。1990年代から国内外の新しい形勢と外国人留学生の学習需要に応じるために、漢語学院は貿易中国語コース、中国言語文化コース、漢英コース、韓漢コースを増やした¹⁶⁾。高い素質、堅固な基礎、多ルートの言語プラス専攻の養成モデルを形成し、中国語基礎知識、統合的な中国国情と人文の知識があり、専門素質と能力がそろっている言語と専攻、上手に中国語を活用できる複合型・応用型人材を養成することを目的としている。

漢語学院は過去の単一の中国語教育を変革して、中国語と専門科目を結合して、社会発展の需要に基づいて、専門人材を養成していると思われる。カリキュラムの設置で学科発展の新趨勢、国際人材市場の新需要、留学生の特徴の新しい変化に対応していると考えられる。専攻を持つ中国語教育機能は今後の漢語学院発展の趨勢となるとと思われる。

(2) 漢語速成学院

北京語言大学は短期の中国語留学生のために、漢語速成学院を設立した。これは外国人留学生に対して、専門に中国語速成教育と短期教育を行う学院である。漢語速成学院は中国の同種の教育機関の中で、歴史が最も長く、規模が最も大きく、専攻が最も多い。漢語速成学院は1978年に創立され、1982年、外国人短期中国語研修学部を設立し、1993年学院に変わっており、これまで28年の歴史がある。2002年6月まで、学院は110ヶ国の約40,000人の留学生を受け入れた¹⁷⁾。現在、毎年4000人余りの留学生を募集している。

漢語速成学院は短期、強化、速成の特徴がある。短時間の強化訓練を通して、学生の漢語能力を顕著に高め、特に学生のヒアリング・会話・読み・書き能力を育成することを強調している。この学院は授業計画の科学化と規範化を重視し、授業実践の実用性・適応性と活用性も重視している。学院は留学生のための選修科目を設置した。これらのカリキュラムを通して、短期間で留学生の中国語レベルを高めさせ、中国語の語学的知識と文化的知識を身につけさせ、中国の社会生活を理解させる。例えば以下のようなものである。

各段階の練習授業：会話練習、ヒアリング練習、読解練習など。

各段階の語学要素授業：発音、書く、文法など。

各段階の語学技能授業：生活交際会話、中国語作文、スピーチコンテストなど。

文化授業：中国国情、中華文化、歴史物語など。

文化技能授業：書道、絵画、太極拳、京劇、中国歌謡など。

貿易授業：貿易会話など。

文学鑑賞。

映画、テレビ鑑賞¹⁸⁾。

漢語速成学院は毎年の春と秋に、20週間の速成強化クラスと普通強化クラスを開設し、また、4週間～12週間の短期強化クラスも開設している。これらのクラスは短時間の学習を通して、留学生の中国語レベルを高め、中国の文化を理解させることを目的とする。

漢語速成学院は毎年受け入れる留学生が一番多く、中国語を世界に普及させ、外国人に中国文化を紹介するという二つの機能が揃っている。

(3) 漢語研修学院

漢語研修学院では留学生のために10カ月間の中国語研修コースが設置されている。初級中国語研修、中級中国語研修、高級中国語研修、漢語予備教育、漢語標準語養成コース、中国語専科教育がある。漢語標準語養成コースは香港、マカオ、台湾の留学生のために設置されたコースである。学生は試験を受けて、『標準語レベル等級証明書』が取得することができる。

以前は大学で2年間中国語を学習することは中国語研修であり、学位は取得できなかった。中国語専科教育はこの状況を変革してきている。中国語専科教育は2年間の学習を通して、中国語に加えて専攻科目があり、単位を取った後、専科学位を取得することが可能となった。

現段階では、商務専攻、社会専攻、旅行専攻、秘書専攻の4つの専攻を持っている。

専科教育には4つの学期があり、留学生の中国語レベルによって中国語教育に柔軟性がある。中国語が全然できない留学生は4つの学期で80単位を取ってから、専科学位が取れる。中国語を勉強したことがある留学生は中国語試験を受けて、合格したら、第1学期の単位は取得したことになり、第2、3、4学期の授業だけを受けてもよい。専科でも、必修科目と選修科目に分けて、留学生は自分の興味によって授業を選べばよい。

漢語研修学院は漢語標準語を普及する機能があり、専科教育を通して、より多くの留学生を引っかけて、留学生の漢語学習の興味を促進し、漢語学院と漢語速成学院の不足を補充する教育機能があると思われる。

(4) 遠隔教育学院

北京語言大学は国家教育部に認定された遠隔教育実験学校の一つである。中国国内の対外中国語教育領域では唯一のインターネットによる遠隔教育によって学位が認定される学校である。遠隔教育学院は2000年12月に設立され、北京語言大学に属する二級学院である。国家の規定に基づいて、北京語言大学遠隔教育学院は世界中で北京語言大学の各専門による現代遠隔教育の学歴と非学歴教育（学位を取得するのと学位を取得しない教育）の学生を募集する権限があり、自ら入学標準、試験、採用方法、学生募集地域、募集規模を決定し、自ら卒業標準に達した学部学生に国家が認める証書、学位を授与できる権限を持っている。

遠隔教育学院の教育は「北語オンライン」というホームページによって、全世界の外国人、華僑に向けて中国語教育を行う¹⁹⁾。主として中国語学位教育、非学位の職業中国語研修教育及び全国各教育センターをベースとする中国学生向けの学部教育に分かれている。学生は単位によって、授業料を払う。授業は主に中国語を焦点としている。中国国情、文化、貿易などの授業もあるが、相対的に少ない。

「北語オンライン」は北京語言大学の外国人向けの豊かな中国語教育資源をベースに、授業の内容は北京語言大学の中国語教育を行う学院のものと全く同じで、単位交換が認められている。学習方式は弾力的で、試験政策は柔軟である。教育経験豊かな外国人向け中国語教師がインストラクターとして質問に対応している。

現在、オンラインコースは、学歴課程の中国語専攻の1年生、2年生課程、非学歴課程の「初級ビジネス中国語口語」「HSK(初級、中級)指導」「図を見ながら話す」及び初級、中級中国語各段階における聞く、話す、総合コースなどがある。遠隔教育の学歴教育は1、2年生は中国語教育を行って、3年生から専攻教育を行う。中国語言語コース、貿易コース、中国語言語文化コースの三つがある。学歴教育課程を履修する学生は160単位（卒業論文の4単位を含む）を履修し、卒業論文答弁に合格した学生は学士学位証書と北京語言大学の学部卒業証書（ネットワーク教育形式が記されてある）が獲得できる。非学歴職業中国語研修課程を履修する外国人留学生は課程試験に合格した場合、該当する単独科目の修了証書も獲得できる。

「北語オンライン」の育成目標は現代国際社会が必要とする良好の総合素質を備え、全面的に優れた中国語専門人材を養成する。育成目標は以下の4点である。①しっかりとした中国語能力と言語交流能力を身につける；②系統的な中国語基礎理論と基礎知識を身につける；③基本的な中国語人文知識を身に付け、中国国情と社会文化を熟知する；④文献検索、資料調べの基本方法を身につけ、初歩的な科学研究と実際の仕事能力を身に付ける²⁰⁾。

「北語オンライン」は既にアメリカと香港で二つのミラーサイトを立ち上げ、現在の学生は19の国と地域から来ている。遠隔教育学院は近年自国留学という新たな留学形式の需要を満たし、世界に漢語、中国文化を伝える機能を整えつつある。

ここまで、北京語言大学における4つの留学生教育機関の発展過程、教育状況、養成目標、カリキュラムを明らかにした。表3は、4つ教育機関の特徴を比較し、教育の重点を分析したものである。

表3 4つの教育機関の特徴に関する比較

	漢語学院	漢語速成学院	漢語研修学院	遠隔教育学院
教育対象	長期留学生 (4年間)	短期留学生	香港、マカオ、台湾の留学生と長期留学生 (2年間以内)	自国で中国語を勉強する外国人
教育期間	4年間	20週間以内	10ヶ月、2年間	制限なし
教育場所	北京語言大学	北京語言大学	北京語言大学	自国
養成目標	統合的な中国国情と人文の知識があり、上手に中国語を活用できる複合型・応用型人材	中国語レベルを高め、中国語の語学的知識と文化的知識を身につける	中国語共通語を勉強する。中国語を学習すると同時に専門知識を身につける	中国語を学習すると同時に専門知識を身につける
専攻設置	◆中国語言語コース(言語コース、貿易中国語コース、漢英バイリンガルコース、中国言語文化コース、韓漢翻訳コース)◆中国言語文化コース	◆速成強化クラス ◆普通強化クラス ◆短期強化クラス	◆初級中国語研修、中級中国語研修、高級中国語研修、中国語予備教育、中国語標準語養成コース、◆中国語専科教育(商務専攻、社会専攻、旅行専攻、秘書専攻)	◆学歴教育(中国語言語コース、貿易コース、中国語言語文化コース)、◆非学歴教育(「初級ビジネス中国語口語」「HSK指導」「図を見ながら話す」など)
カリキュラムの特色	◆中国語と専門課程◆中国文化の科目◆中外翻訳	中国語	中国語を中心として、専門科目が少ない	中国語を中心として、専門科目が少ない
学院特徴	◆最初の外国人留学生向けの中国語専門教育機関◆学位教育◆中国語専門人材養成	◆中国の同種の教育機関の中で、歴史が最も長く、規模が最も大きく、専攻が最も多い◆中国語の普遍化に寄与する	◆最初の専科教育◆中国語共通語の普及	◆唯一のインターネットによる遠隔教育によって学位が認定される学校◆多様な語学コース

【出典】北京語言大学ホームページ、パンフレットを基に 筆者作成

表3に示したように、北京語言大学は中国の最大の留学生教育基地として、留学生の専門教育機関があり、明確な教育目標を確立し、従来の中国語だけの留学生養成モデルを改革して、多角度、

多側面から留学生を育成しているといえる。特に留学生のカリキュラムは留学生の関心に応じて設置し、中国文化の伝播と中外文化の交流に寄与すると考えられる。さらに、漢語研修速成学院は短期の留学生のために速く中国語レベルを高め、中国社会、文化を理解することで総合的な中国理解の機会を提供していると考えられる。

北京語言大学は留学生に中国語、専攻教育だけでなく、教育部によって提示された素質教育を実践している。留学生の素質教育とは、心理素質、道徳素質、身体素質、審美素質、智能素質を含んでいて、その中でも、智能素質は留學生素質教育の核心である²¹⁾。北京語言大学のカリキュラムから見ると、留学生に、中国語教育に加えて中国国情、社会、技能などに関する科目も設置している。そのため、留学生は中国語を身に付けるだけでなく、良好な心理素質を発達させ、社会道徳観を養成すると思われる。素質教育を通して、今後の留学生自身の発展に寄与して、国際社会に有用な人材を養成すると考えられる。

以上、北京語言大学における4つの教育機関はそれぞれ独自の教育機能を持ち、自身の教育対象、教育特色、教育目標があり、独立な教育機関である。同時に、4つの教育機関が無関係に機能しているのではなく、各種類の留学生に適合するために、相互に補完する役割を持っているのである。

5. 留学生支援機能の展開

留学生受け入れ機関の留学生教育の機能が明らかになってから、もう一つの重要な機能—留学生支援機能について分析していく。実際に大学の場合は、留学生管理、生活支援の機関は留学生課が担うであるが、留学生課と上述した教育機能を担う漢語学院、漢語速成学院、漢語研修学院とは連携があり、相互に協力し、特に、留学生の文化交流活動を組織する際に、緊密な関係を持つ必要がある。

また、北京語言大学における留学生支援の事業は主として、留学生の受け入れ、住宅問題、健康問題、課外活動、地域交流、留学生の就職などの7つの領域での支援を含んでいる。筆者はそれらの支援業務の実行時期と実行力によって、3つに分けて、詳細に考察する。

(1) 基本的な支援業務

北京語言大学の最初の支援内容としては、留学生の受け入れ、オリエンテーションと経済支援である。留学希望者は北京語言大学のホームページから書類をダウンロードして、自分の資料を添付して、留学生課に郵送するが、審査に合格してから、『入学通知書』と『外国留学人員来華ビザ申込書』が送付される²²⁾。希望者はこの書類を持ち、当地の大使館でビザの手続きを行っている。現在の手続きは希望者にとって、とても便利で、速いものとなっていると思われる。それは過去の申し込み手続きはとても複雑で、留学生の受け入れに不利であったが、近年、留学生を惹きつけるために、申し込み手続きを簡素化したからであると考えられる。留学生ができるだけ早く中国の生活に適應するために、新入生オリエンテーションを行っている。安全教育なども新入生教育の重点として重要視された。これらの支援の実践が早く、留学生課の基本的な業務になったと思われる。

留学生教育が発展するに従い、留学生の授業料は大学の財政収入の一部になっている。北京語言大学の留学生に対する経済支援として、授業料の免除と奨学金の提供がある。授業料免除は主に姉妹学校、友好学校からの留学生に向けて提供するものである。

もう一つは奨学金の提供である。これらの奨学金は北京語言大学から支出するのではなく、教育部、他の財団から提供している。北京語言大学の留学生課の職能は主に留学生に奨学金の情報を提供し、また、教育部或いは各種奨学金の審査委員会に奨学金申請のための留学生の成績証明書と関係書類を提供することである。現在の経済支援は、個別の留学生に向けることで、全体の留学生に支援することではないと考える。奨学金の支援は日本と同じで、情報の提供しかなくて、本格的な支援とは言えないと考える。

(2) 重点的な支援業務の実施と実態

現在、北京語言大学の支援業務の重点は住居の世話、課外活動の組織化と地域内交流の活発化の3つある。

住居について、大部分の留学生は学校の寮で生活するので、北京語言大学は留学生の生活の便宜のために、留学生寮を改善しつつある。留学生の要求によって、ホテル式の寮と普通の寮を設置して、留学生は選択できる。郵便局、クリーニングなどの生活サービス機構が設置されている。

校外で生活したい一部の留学生のために、留学生課は住宅の紹介や、手続きの手伝いや、安全における注意点などについて支援している。留学生課の担当者は定期的に、街区、住宅公社、警察署に連絡し、留学生校外宿泊の最新動向を把握し、留学生の困難を解決することに協力している。これは留学生の学習、生活の安全を保証することにつながっている。

住居のことは北京語言大学によく重視され、寮の数を増加し、寮の環境を改善しているが、校外住居が許可されてから、住居斡旋の業務が重点になっていると考えられる。北京語言大学の住居斡旋の実施がほかの留学生受け入れ機関に有益な参考になると考えられる。

課外活動を組織することは留学生課事務の重点の一つである。現在、留学生課と漢語学院などのような教育部門と連携して課外活動を展開している。大学は社会・経済状況や、人気のある課題について学術講座や学術討論会、有名な学者の訪問などの活動を行っている。これらの活動を通して、留学生に中国の政治、経済に対して正確な認識を持たせると思われる。例えば、「経済グローバル化の実質と中国の対策」「中国はWTOの挑戦に 대응する」などのテーマで専門家を要請して、講演したこと。

また、留学生を主体としている文化活動を展開する。文化活動は中国の音楽、踊り、京劇、書道などを勉強し、各種の演出、試合を組織することを含んでいる。これらの活動を通して、留学生に中国の風俗を理解させ、中国語の学習に寄与すると考える。留学生に文化の角度から中国社会を認識させ、中国に対する感情を増加させると思われる。例えば、中国の飲食文化は中国の風俗文化の重要な部分で、定期的にギョーザパーティーを行う。体育活動は中国の伝統体育項目（例えば、太極拳、中華武術など）、運動会、体育祭などを含んでいる。

さらに漢語学院は留学生文化活動週間を実施する。文化活動週間では中国語作文試合、通訳試合、万年筆書道試合、中国語スピーチコンテスト、文化弁論会、貿易協議模擬試合、中華才芸表演等の10項目がある。同時に、4年生は言語文化組と貿易中国語組に分けて、別々に杭州と蘇州に行って卒業インターンシップ活動を行っている。漢語学院は文化活動週間を展開する目的として開設のカリキュラムと密接に配合し、留学生の文化生活を充実させ、留学生の積極性を調達し、留学生の学習成果と才芸を展示すると考える。約2000人がこの活動に参加した。もう一つの課外活動は見学旅行である。主に、北京の郊外、名所古跡への旅行や工場、農村、学校などを見学する。

上述の文化活動は留学生の生活スタイルの変化や生活習慣の違いがもたらす戸惑いや違和感の解消、自国郷里を離れ、家族や友人と別れたことによるホームシックを解決することに寄与すると考える。これらの課外活動は北京語言大学が最もオリジナルの留学生支援業務で、留学生教育、生活、文化の3つが結合し、留学生教育機関とする「漢語学院」及び留学生管理支援機関とする「留学生課」が連携して行った活動であると考えられる。

留学生と地域住民の相互理解を深めるために、北京語言大学はホームステイ、ホームビジット等の地域な交流活動を組織している。また留学生課の担当者が地域の管理者と長期の交流関係を築き、毎年定期的に交流活動を展開し、絶えず交流の形式を改革していることは、地域市民を全面的に外国人留学生を理解させ、文化の壁を越えて、本当に中国社会を理解させることに寄与していると思われる。さらに、留学生課の担当者は留学生と緊密な連絡を保持する。掲示板やパンフレットの方式で交流活動の情報を伝えて、より多くの留学生をこれらの活動に参加させる。同時に留学生担当者は留学生が希望する交流活動を知り、今後の仕事を改善する。地域な国際交流活動は北京語言大学だけでなく、他の留学生受け入れ大学が国際交流活動を展開している。しかし、今まで各大学における活動はほとんど固定なもので、特色ある活動が足りないと思う。北京語言大学は特別な位置としてどのように多種多様な交流活動を発達することが期待されると考える。それらの交流活動は他の留学生受け入れ大学の見本となると思われる。

(3) 新たな支援業務への発展

私費留学生の増加、中国国情の変革に伴い、北京語言大学は健康管理と進路相談の2つの支援業務を増やした。

健康問題は留学生が留学目標を達成するかどうかと密接な関係がある。多くの留学生にとっては最も心配なことである。留学生の健康支援は3つの側面がある。

一つは、留学生は中国到着後、定められた期限内に衛生検査部門で『外国人身体検査記録』の確認手続きをしなければならない。『外国人身体検査記録』が提出できない場合は、現地の衛生検査部門で健康診断を受けなければならない²³⁾。

二つ目は、留学生は在籍期間中に病気を患ったら、学校の病院で治療を受けられる。この場合、一部分の医療費が免除され、留学生の経済負担を減少すると思われる。

三つ目は、近年、中国の医療費が高くなっていることに伴い、この状況を解決し、留学生の学習

生活を保証するために、中国教育部と中国平安保険会社と協調して、『来華留学生総合保険』を設立した。『来華留学生総合保険』は留学生団体平安保険、留学生意外傷害医療保険、留学生入院医療保険と団体高額医療費用保険という4つの種類を含んでいる²⁴⁾。この保険は留学生のみに向けてのことで、留学生が中国に留学する期間の健康問題の保証を目的としている。中国の中国平安保険会社に加えて、他の保険会社も留学生に保険を提供しているため、留学生は自身の具体的な状況によって自由に選択できる。

留学生医療保険業務について、北京語言大学は中国で最初に実行された大学である。この保険は留学生が生活面の不安を減少でき、留学生の学習を保証できると考える。

留学生への就職支援は近年中国経済の発展に従い、北京語言大学の留学生課が進路相談の新たな機能を増加した。2003年、北京語言大学は210人の留学生に対して調査を行った結果、3分の1の留学生が中国での就職を希望していた²⁵⁾。中国での就職を希望する留学生の中には、日本、韓国からの留学生が多い。そのため、北京語言大学は、留学生の希望によって、北京市人事センター、各企業と積極的に連絡して、留学生就職ホームページを設置し、留学生履歴を載せて、求人企業が便利に調べられるようにしている。

現段階において、外国人留学生が中国に就職するルートとして、最も多いのが外国独資企業或いは中外合資企業であり、次は自国の大使館或いは現地オフィスである。また学校では外国語の先生になる人もいる。進路相談は最近の留学生支援業務であり、簡単に言えば、求人企業に留学生の情報を提供するだけで、北京語言大学では積極的な就職斡旋活動は実践されていない、また専門職員も不足しており、就職支援システムを形成してないと考えられる。

以上の支援活動についてまとめたい。新入生オリエンテーション、住宅の世話、課外活動は支援活動の中心として、早い時期に実行されるので、定期的な活動になっている。経済支援とは北京語言大学は国家の政策により授業料を免除するとか、留学生に奨学金情報を提供することで、自主権が欠けていると考えられる。健康管理、地域内交流は留学生の増加に従い、留学生の勉強を保証し、生活を高めるために出した支援活動といえる。進路相談は中国での就職を希望する留学生の増加に伴い、始めたばかりで試行段階に位置しており、多くの地域ではまだ始まってない、北京語言大学を見本として期待されている。

これらの支援活動は留学生の中国における学習生活を保証し、留学生をできるだけ早く中国における生活に適応させるものであると考える。これらの交流活動は留学生が学習した中国語を活用するものであり、中国語学習の積極性を促進している。留学生は交流活動を通して、中国社会に触れる機会が増加し、より中国文化を理解でき、留学の目的を達成できると思われる。同時に中国に友好的な人材を養成して、中国と世界諸国の政治、経済、文化交流を促進することは留学生への支援活動の目的でもあろう。

6. おわりに

以上、これまで検討してきたように新中国成立の最初から今まで、北京語言大学を事例として多くの変革を経てきた。①学校の規模は中国語専修クラスから大学まで、②留学生の受け入れは政府の指令を受けることから自主的に受け入れることまで、③大学の機関は1つのクラスから4つの教育機関と3つの管理機関まで、④教育形式は単一の中国語補習から多種の専攻まで、⑤カリキュラムは単なる中国語から中国文化、社会などまで、⑥大学の業務は教育から教育と生活支援まで、というように制度的、内容的にも展開してきた。

北京語言大学の発展過程は中国の留学生受け入れの縮図である。大学は機関の設置では社会の需要により各種類の留学生の要求を満足させようと努力している。そうした中、留学生教育機関は強い専門性があり、別々に自身の教育特色を形成し、相互に補完していることがその特徴であることが分かった。漢語学院では中国語を基礎とする専攻の設置は、応用型の人材を育成し、中国文化が世界に伝わることを促し、他の教育機関は中国語の普及を促進している。4つの教育機関は異なる教育機能が揃い、多種の教育機能は異なる育成目標を設置し、多様な教育内容があり、多種人材の育成が促進されていると考えられる。教育機能の面からいえば、北京語言大学は各教育機関の特徴によって、中国語教育に加え、社会教育、文化教育等の総合の教育機能をどのように発達させていくか、今後の課題になると思われる。

一方、留学生管理機関は留学生教育機関と互いに協力して支援機能を改善し、留学生の学習と生活を保証することが求められている。北京語言大学における留学生管理機関の支援機能は国家の政策に従い、もとの機能を改革し、新たな機能を増加している。北京語言大学は自身の優勢を利用して、教育部、企業と連携し、豊かな留学生生活支援活動を展開している。北京語言大学の留学生生活支援活動は中国における他の留学生受け入れ大学でも先例となろう。北京語言大学及び他の留学生受け入れ大学は、OECD諸国の留学生支援経験に参考になると同時に、中国の国情、政策に基づいて、留学生支援の具体的な業務において、自身の特色を形成している。

以上述べたように、北京語言大学は留学生教育と生活の面で留学生に支援していることが明らかになった。留学生生活支援を実施している機関は「留学生課」のみで、オーストラリアの専門部局と比べて、専門性が足りないと思う。今後、留学生支援の能力を高めるために、留学生支援の専門職化が北京語言大学の課題になるのではないだろうか。また北京語言大学は自身の優勢を活用し、特色ある支援活動を実施し、どのように留学生支援機能を改善することが大きな課題となる予想される。

本稿においては、北京語言大学を事例として留学生教育機能と生活支援機能の歴史的そして具体的な展開過程を明らかにした。その留学生教育機能と生活支援機能は他の留学生受け入れ大学にどのような影響を与えるかということについては言及していきたい。他の留学生受け入れ大学は北京語言大学の留学生教育機能と生活支援機能を参考にすると同時に、どう大学自身のオリジナルな教育と支援特色を開発するかということを経後の課題として研究していきたい。

〈注〉

- (1) 留学交流事務研究会 編著『留学交流執務ハンドブック』第一法規出版株式会社、2000年、p. 17。
- (2) 例えば、ピッツバーグ大学では、「国際学生局」と「国際部」を設け、専任の教員と事務職員を二十数名配置している。「国際学生局」は留学生の受け入れを担当する、「国際部」は国際交流事業のすべてを総括する。江淵一公 『大学国際化の研究』1997年 玉川大学出版社 p. 88。
オーストラリアの各大学では、カウンセリング、住居の世話、学資ローンの世話、進路相談、アルバイトの斡旋、健康管理、娯楽施設の紹介、学業に関する助言と支援等、多種多様のサービスを専門の部局を設けて行っている。江淵一公前掲書p. 87。
日本はアジア最大の留学生受入国として、国立大学の留学生センターの業務は留学生教育、修学と生活上の指導助言、留学生交流の推進などがある。横田雅弘・白土悟 『留学生アドバイザー—学習・生活・心理をいかに支援するか』株式会社ナカニシヤ出版、2004年、p. 60。
- (3) 中国教育部編、2005、『2004年全国来華留学生統計摘要』中国国家留学基金管理委員会ホームページ<http://www.csc.edu.cn>。この中で、留学生の学習期限、留学生類別、専攻、留学生出身地、中国にいる地域、留学生国籍、留学生人数が1000人を超える学校などを別々に統計する。
- (4) 曲徳林「中日における留学生受け入れ政策の現状、比較及び展望」中日留学交流シンポジウムの材料、2003年、p. 14。
- (5) 尹鴻祝「北京語言大学喜慶40周年華誕」、『中国教育新聞』第一版、2002年。
- (6) 劉英傑編『中国教育大事典1949～1990』、浙江出版社1993年、p. 1665。
- (7) 万飛「中国高校分布と概況」広東省地図出版社、2003年、p. 11。
- (8) 北京語言大学ホームページ <http://www.blcu.edu.cn> 2003年11月8日。
- (9) 同上。
- (10) 尹鴻祝前掲。
- (11) 同上。
- (12) 金春花 『来華留学生教育論』ハルピン地図出版社、2003年、P178。
- (13) 北京語言大学留学生課『北京語言大学の来華留学生募集願書（2004年版）』北京語言大学、2003年。
- (14) 同上。
- (15) 北京語言大学ホームページ <http://www.blcu.edu.cn> 2005年11月15日。
- (16) 北京語言大学留学生課『北京語言大学の来華留学生募集願書（2005年版）』北京語言大学、2004年。
- (17) 尹鴻祝前掲。
- (18) 蘇曉環『中国の教育—改革とイノベーション』五洲伝播出版社、2002年、P115。
- (19) 北京語言大学ホームページ <http://www.blcu.edu.cn> 2005年11月18日。

北京語言大学における留学生受け入れ機関の機能的展開

- (20) 同上 2005年11月18日。
- (21) 楊永康「外国人留学生に素質教育を行う実践と体験」上海外国語大学国際文化交流学院『留学生教育巡礼』学林出版社、2001年、P183。
- (22) 中国国家留学基金管理委員会、国家留学ネットワーク<http://www.csc.edu.cn> 2003年7月14日。
- (23) 同上 2003年7月14日。
- (24) 同上 『神州学人』より 2004年1月23日。
- (25) 『三分の一の外国人留学生は中国に就職したい』<http://www.learning.sohu.com>,2004年。

謝 瑋

Development of International Students' Acceptance Agency's Function of Beijing Language University

Wei XIE

In this article, I aim to clarify the history of the international students' acceptance in China by examining the developing process of the Beijing Language University. Then, the function of the international students' acceptance agency in the Beijing Language University is investigated, each operation's emphases and the relations are analyzed, and the concrete implementing conditions and the existing problems about the international students' education and the living support are clarified. It is necessary that the major universities should make a consciousness on the value of the international students' acceptance with the tendency of the tertiary education's internationalization and industrialization in the future. It is thought that researching about the international students' acceptance of Beijing Language University is also a beneficial suggestion to other universities in the future.

The developing process of the Beijing Language University represents the acceptance of international students in China. According to the needs of the society, the university sets up the agency in order to make efforts to meet the needs of the various kinds of international students. Therefore, the agency has such characteristics as holding a strong specialty, forming an individual educational feature, and amending to each other.

Furthermore, with the cooperation of the international students' education agency, the international students' regulatory agency improves the supporting function and guarantees the international student's study and living. The supporting function of the international students' regulatory agency of the Beijing Language University, reinvents former functions according to the national policies, and increases new functions.